

g. Yamamoto

平成 11 年 3 月



「総合的な学習の時間」は「生きる力」を育む中核的時間

お茶の水女子大学教授 宮原 修

新しい学習指導要領が告示された。いよいよ 2002 年からゆとりと「生きる力」の完全学校週 5 日制がはじまる。その目玉の一つが「総合的な学習の時間」である。「総合的な学習の時間」について学習指導要領に書いてあるねらいは、第 15 期中教審答申で打ち出された「生きる力」とほぼ重なる。ゆえに「総合的な学習の時間」は「生きる力を育む中核的時間」といえる。ただし、答申の「生きる力」は、知(認知的)、徳(情緒・感情的)、体(感覚運動的)のバランスを強調しているが、「総合的な学習の時間」のねらいはどちらかという、認知的側面が強い。もっとも「自己の生き方を考えることができるようにすること」という一文はある。学習指導要領に書いてあるとおり、「総合的な学習の時間」で行える課題は極めて自由度が高い。極端に言えば何をしてもよい時間である。それだけに説明責任は重い。私は、「総合的な学習の時間」は二つのキーコンセプト(基底となる考え方・概念)をもたなければならないと考えている。一つは「グローカリズム」ということである。これはグローバルズム(地球主義、世界主義)とローカリズム(地域主義)の合成語である。すなわち、地域を見つめ考えつつ地球(世界)を見つめ考えるということである。国際人とは日本人であり広島人であることを忘れることではない。地域から世界へ、世界から地域へという世界市民の考え方であり行動である。もう一つは、ともに生きるすなわち共生、連帯ということである。異文化、マイノリティ、外国人、男女その他が違いを認め合いつつともに生きること、自然(環境)とともに

生きることなどがある。

では、このことを意識しつつ「総合的な学習の時間」をどう創ればよいのだろうか。基本的には、各教科、道徳、特別活動と同様に「総合的な学習の時間」も先ず週単位で授業時数を設定しておくのがよい。つまり、基本的には、小学校では 3 年生以上週 3 時間程度、中学校では週 2 時間程度とする。その上で年間(長期)計画、学期内(中期)計画、月間ないし週間(短期)計画を立てる。長期計画は長期課題、中期計画は中期課題、短期計画は短期課題でもある。すると、小学校では各課題に 1 時間ずつ充てられる。中学校では中期と短期だけでもよい。短期の課題としては、例えば獅子座流星群、金大中－韓国と日本、江沢民－中国と日本、クリントン－アメリカと日本、その他、時々の話題が考えられる。中期の課題としては、例えば、季節に関する課題(台風、植生、天候、行事など)を通して、地域と世界の環境や福祉・健康、情報などについて考えるとか、生命に関する課題(高齢化、性、喫煙、ガン、交通事故など)を通して、福祉・健康、情報、環境などについて考えるなどがある。その他平和や人権、ボランティアなどさまざまな課題が考えられる。小学校での長期の課題としては、国際理解に関する学習の一環としての外国語会話等がある。その際、週 2 回 20 分程度も効果的である。いずれにせよ、教職員はもとより、家庭、地域社会の人々が協力し創意工夫を発揮して、「総合的な学習の時間」に 21 世紀を生きる子ども一人ひとりが「生きる力」を育むことのできる時間にしなければならない。

もくじ

- 巻頭言 1
- 研究の紹介 2
- 写真でつづる研修講座 4

- 教育実践のアイデア 6
- 教育相談室から 6
- 教育センターひろば 8

小学校・中学校における

心の居場所となる学級づくり を図る援助・指導の在り方

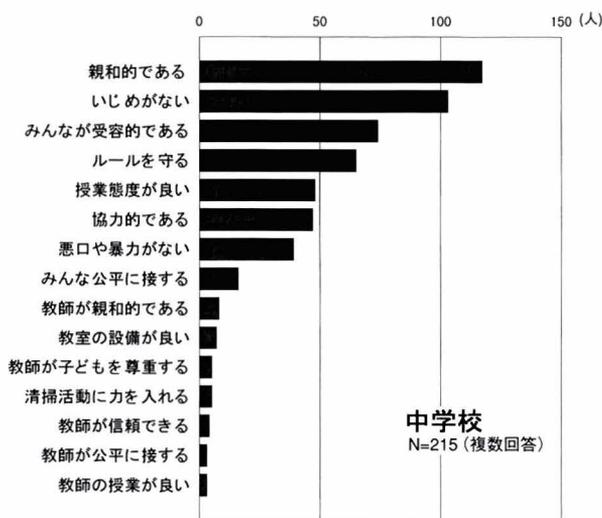
教育センター指導主事 三原裕隆

いじめの問題や不登校の課題への解決に向けて、学校においては、子どもが安心して過ごせ意欲的に活動できる学級づくりがとても大切です。

本研究では、心の居場所となるような学級をつくるためには、何が大切で、どのような方法があるのかを明らかにしようとしてきました。

1 心の居場所となる学級づくりの4条件

子どもは、学級が心の居場所となるために何が大切だと考えているのでしょうか。自由記述式の調査から探ってみました。



学級が心の居場所となるために大切なこと

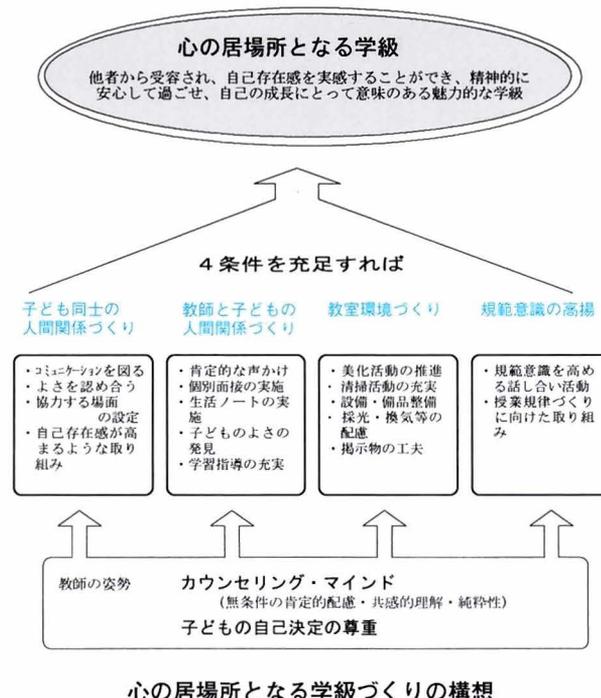
「親和的である」「いじめがない」など、子ども同士の人間関係に関するものが多いことが分かります。そして、記述を分類していく中で、

- 子ども同士の人間関係づくり
- 教師と子どもとの人間関係づくり
- 教室環境づくり
- 規範意識の高揚

の4条件が重要であることが分かってきました。

2 心の居場所となる学級づくりに向けて

学級づくりにおいては、前述の4条件を充足させる取り組みを、教師のカウンセリング・マインドや子どもの自己決定を尊重する姿勢のもとに行うことが大切です。



3 具体的な取り組み

次に示したものは、4条件の中で子ども同士の人間関係づくりに関する取り組みの1例です。

「あったかいことば」をふやそう

〈方法〉

- ① どのような「ことば」が、友達への思いやりのある、あたたかくやさしいことばなのか話し合う
- ② 話し合いや日記の中から出た、みんながうれしく、幸せになるようなことばを学級で紹介する
- ③ あたたかいことばを広めるためにポスターなど掲示物をつくる。ことばを見つけた時点で、掲示を一つずつ増やしていくのもよい

教室内に掲示する

- ・できるまで、つきあうよ
- ・いっしょに〜しよう
- ・つぎ、がんばって
- ・どんまい、どんまい
- ・よかったね
- ・すごーい
- ・あつたかいことば
- ・ごめんね
- ・ありがとう
- ・遊ぼう

子ども同士の人間関係づくりを図る取り組み(例)

この他にもたくさんの取り組みがあります。

*詳しくは広島市教育センター研究紀要第18号をご覧ください。

国際理解教育に視点をのこした

小学校における英語教育の推進に関する研究

前教育センター指導主事 松脇守弥
(現教育委員会指導課指導主事)

21世紀の教育の在り方を展望して第15期中央教育審議会は、第一次答申「外国語教育の改善」の中で「小学校における外国語教育の扱い」を取り上げています。しかし、国際理解教育の視点からの小学校への外国語教育の導入は、実践例が少なく、取り組みの見通しをもつことが難しい状況です。

本研究では、研究開発学校における教育実践の状況を分析し、その傾向性や特徴を明らかにするとともに、小学校における「総合的な学習の時間」を活用した外国語（英語）教育の指導の在り方や「国際感覚」の育成を目指した小学校における英語教育の在り方を探りました。

1 国際理解教育の推進について

小学校において国際理解教育の一環としての英語教育をすすめるためには、図1のとらえ方に立って、表1の「国際感覚」の要素を育成することが重要です。

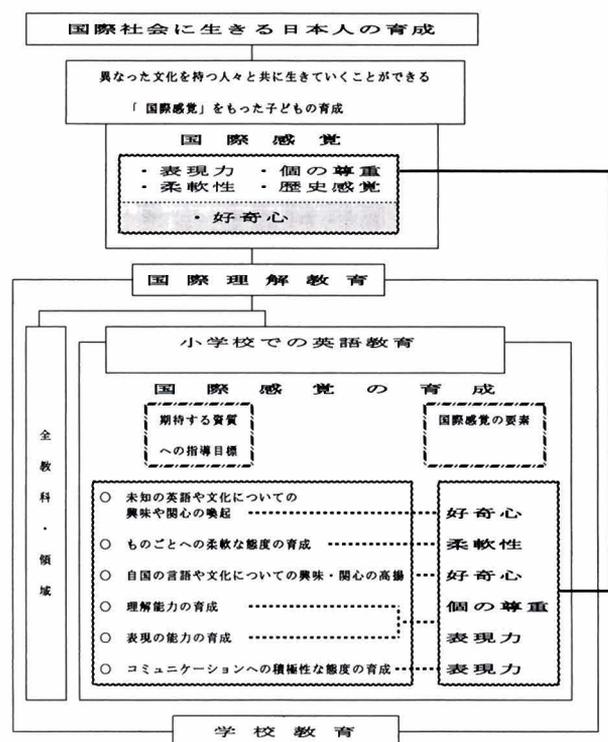


図1 小学校における国際理解教育の一環としての英語教育

表1 期待される子どもの資質と国際感覚

期待される子どもの資質	期待する子どもの資質の指導目標	国際感覚の要素
○ 言語としての未知の英語や文化にふれることによって、英語や文化に興味や関心をもつことができるようになる	・ 未知の英語や文化についての興味や関心の喚起 ・ 自国の言語や文化についての興味や関心の高揚	好奇心 個の尊重
○ わが国の言葉や文化についての新しい知識を獲得するとともに、わが国の言語や文化に関心をもつようになる	・ 理解能力の育成 ・ 柔軟な態度の育成	表現力 柔軟性 個の尊重
○ 身近なやさしい英語を聞いて、相手の思いを理解し、それにふさわしい行動ができるようになる	・ 表現能力の育成	表現力
○ 英語を積極的に使い、外国の文化や外国の人に物おじしない積極的にかかわっていかうとする態度を身につけることができるようになる	・ コミュニケーションへの積極的な態度の育成	表現力

2 研究開発学校の教育実践の状況について

全国の研究開発学校における教育実践の実態調査から、次のような傾向が把握できました。

- ① 指導の重点は、コミュニケーションの楽しさを感じさせたり、外国語についての興味や関心をもたせたりすること。
- ② 指導の形態は、特設教科として英会話を中心に指導を行っていること。
- ③ 指導回数は、60%以上の学校が年間26～35回実施していること。
- ④ 指導は、学級担任、ALT、日本人英語教師の三人が最も多く、次に学級担任とALTの二人で行っていること。 など

3 小学校における英語教育の単元開発について

単元の指導計画、学習指導案および評価表、指導資料等を指導回数、基本的な指導方法、学年目標、教材等を明らかにして開発することができました。図2は基本的な指導方法をまとめたものです。

- 第1の原理—学習者の学力レベルに大ざっぱに合った理解可能なインプットを与えるようにする
- 第2の原理—学習者の応答は一般に非言語的なコミュニケーションで始まり1語から2、3語、さらに句・文へと進み最終的に複雑な談話に至る
- 第3の原理—文法中心の配列を避け、話題や場面を重視した枠組みにする。言葉のやりとりは教室の事物、身体部分、休憩中の好んで出かける場所、その他興味のある話題を中心にする
- 第4の原理—おもしろい事柄に夢中になっている学習者は、文法のことばかり意識している学習者より不安や心配は少ない学習者が目標言語を効率的に習得するために学習の雰囲気や友好的で受容的なものにする

図2 外国語指導の4つの原理

今後は、「国際感覚」の育成を図る小学校における英語教育の実践的研究を行い、その在り方についてさらに追求していく必要があると考えます。

*詳しくは広島市教育センター研究紀要第18号をご覧ください。



平成10年度

写真でつづ



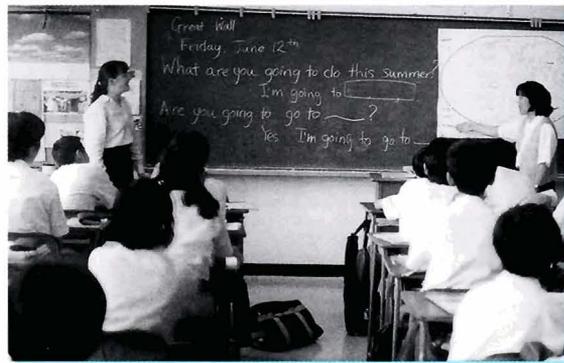
中・高等学校保健体育科実技講座（6 / 26）
一人一人を伸ばす体育指導の在り方について、
実技を通して研修しました



社会教育施設経営講座（1 / 14）
学社連携を図った施設経営の在り方をシンポジ
ウムや協議を通して研修しました



幼稚園教育実技講座（6 / 5）
児童の実態や時期に応じた題材（水あ
そび）について実技を通して研修しまし
た



中・高等学校英語科指導講座（6 / 12）
基本文型を理解させるために実際の場面を想定し、基
本文型理解をめざした指導の在り方について授業研究を
通して研修しました



帰国・入国児童生徒教育講座（10 / 9）
帰国・入国児童生徒との人間関係づくり等につ
いてワークショップを通して研修しました



る研修講座



福祉・ボランティア教育講座（6 / 26）

福祉・ボランティア教育の在り方について介護の体験・実習を通して研修しました



小学校体育科実技講座（6 / 10）

ボール運動の基本動作からゲーム、さらに運動につながる指導の在り方について実技を通して研修しました



横断的・総合的な学習講座（11 / 24）

先進校の実践から「総合的な学習の時間」の授業づくりの在り方について研修しました



学校給食研修講座（8 / 3）

給食指導に活用できる教材・教具を開発しました



小学校理科実験講座6年（7 / 28）

児童が意欲をもって学習できる教材・教具の開発について、実験や製作活動を通して研修しました

今年度の各講座では、子どもがどんなところに興味・関心をもち、どんなことに問題意識をもつのかといった、一人一人の「子どもの学び」にそった指導の在り方を実技、演習等を通して追求しました。また、社会教育関係施設と学校との連携の在り方などを探りました。今年度は、9877名の方々が受講されました。今後も、これからの教育の在り方を求めて、皆様とともにさらに研修を深めていきたいと考えております。



教育実践の

活用してみましょう

主体的な情報収集にデジタルカメラの活用をしてみませんか

教育工学

情報活用能力として「情報活用の実践力」の育成が求められています。この実践にデジタルカメラを活用してみませんか。

デジタルカメラは、コンピュータの周辺機器として画像の取り込みに使われてきましたが、近年収集した映像情報をテレビで即時に提示することが可能となっています。この手軽さを利用して児童生徒に調べ学習等の場面で情報収集をさせ、テレビからの映像に併せて自らの考えを発信させてはどうでしょうか。

このような情報の収集・加工・発信の活動を仕組むことによって「情報活用の実践力」の育成が小学校低学年から可能となります。

さらに、コンピュータと組み合わせることによって多様な活動が可能になると思います。

(担当 神津)

充実させましょう

家庭科における消費者教育

家庭科教育(小)

家庭科は、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることを目指しており、家庭生活の主体者、つまり消費者の側に立つ教育を行っています。

今日の経済社会の変化にともない、消費生活に関する問題は複雑多様化しており、消費者として必要な知識や望ましい態度を今まで以上に身に付けさせることが家庭科の重要な課題となっています。

そこで、家庭科の授業の中で、今まで以上に実習やロールプレイなどの体験的、実践的な活動をしくみ、児童に次のような能力を育てることが必要です。

- ① ものを選ぶ能力
- ② 適切な判断力と意志決定する能力
- ③ 生活する立場からの見方や考え方ができる能力

(担当 前田)

お答えします — 教育相談室から —

Q 最近学級がまとまらず、全体的にざわつき、教室にゴミが散乱していたり、何か反抗的な態度を示す生徒が増えてきています。他の先生からも、「最近クラスの様子がおかしいよ。授業もやりにくくなっているし…」といったことを聞きます。何とか学級をまとめなければと思うのですが、注意すればするほど子どもとの関係がギスギスし、うまくいきません。どうすればいいでしょうか。

A 学級をまとめていくということは担任として大切なことですが、その思いの強さのために、学級全体の規律のことや学級を乱す子どもの行動の方に先生の意識が集中し、先生の子どもを見るまなざしが否定的になってはいないでしょうか。また、学級を何とかしなければという切迫した気持ちから、学級に対する指導が一方向的で性急なものになってはいないでしょうか。子どもとの関係がギスギスしているのは、そのあたりに要因があるのかもしれない。

アイデア

取り入れてみましょう

数学と実生活を関連させた授業づくり

数学科教育(高)

生徒の「数学離れ」が危惧される中、数学と生活や社会とが関係していることを感得させ、数学を学ぶ意義を見い出させるために、実生活の問題に数学を活用し、解決していく活動をより重視しようとする研究の動きがあります。これは、数学と実生活との乖離概念を払拭させることによって、生徒の学びをより実践的な学びとし、その過程で、数学における基本的な概念・原理・法則の理解や、数学的な見方や考え方のよさの認識を一層図ることをめざしたものであると考えます。その具体的な事例としては、数Ⅰ「三角比」で望遠鏡で距離を求める場を設定したり、数Ⅲの「微分」で牛乳パックの形のよさを考える場を設定したりして、生徒が実験や実測した結果と理論的な計算結果を比較する活動を通して、学習内容の理解を深めさせる実践があります。

(担当 尾形)

取り入れてみましょう

自己評価力を育てるためのポートフォリオ評価

音楽科教育(中)

最近、教育雑誌等でよく見られるようになった「ポートフォリオ」とは、学習活動の計画表やねらい、自己評価カードや他者評価カード、教師のコメント等、自分の学習に活用した資料なども含めてファイルしたものです。

ポートフォリオ評価とは、生徒がポートフォリオを参考にして、学習活動を「ふり返りつつ、次の学習活動を計画する」といった学習活動全体を見直す評価活動です。

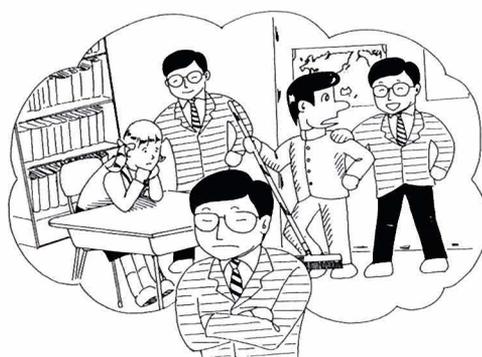
例えば、音楽の表現の活動では、表現方法や練習の仕方等を見直す時に、自分は何を表現しようかめざし、どのように工夫しようとしてきたか等をポートフォリオを活用してふり返るのです。生徒自身がポートフォリオ評価を生かし、自分にとって意味のある学びを試行錯誤しながら実践することによって、学ぶ者としての充実感を味わい、自己の学習を評価する力が育つのではないのでしょうか。(担当 井坂)

小さな変化を大きな変化に

「授業がやりにくい」とその他の先生からの指摘もあり、「学級を何とかしなければ」という思いにかられることは担任として自然なことですが、いきなり学級をまとめようとすると少し無理が生じます。教師の指導が子どもに入っていくためには、教師と子どもとの間に好ましい人間関係が築かれていることが必要です。ここはひとつ、この人間関係の改善から取り組んでみてはどうでしょうか。「学級をまとめなければ」という縛りからちょっと離れて、一人一人の子どもとの好ましい人間関係づくりという生徒指導の基本に立ち戻って、一歩一歩進めてみるのです。

例えば、「子どもとの会話をちょっと増やしてみる」「廊下ですれ違うときニコッと笑ってみる」「教師の側からおはようの声をかけてみる」「掃除の時間に子どもと世間話をしてみる」等、日常的で取り組みやすいことから始めていくのです。

こうした教師のかかわりの変化は、教師と子どもの関係の変化につながります。最初は小さな変化でも、それを続けていくことで大きな変化になります。一人一人の子どもへの担任の小さなかわりの変化、その積み重ねが学級全体の雰囲気や好ましい方向へと転じさせ、結果として学級のまとまりが生まれてくるのだと思います。



教育センターひろば

この1年のあゆみ

教育研究発表大会



指導主事の研究に加え当教育センターで半年間研修した教員長期研修生の成果も発表しました。(応用教育研究所所長辰野千壽先生の「生きる力」にかかわる講演もこれから教育を進めていく上で、大変示唆に富むものでした。来年度もぜひご参加ください。

リーフレットの配布



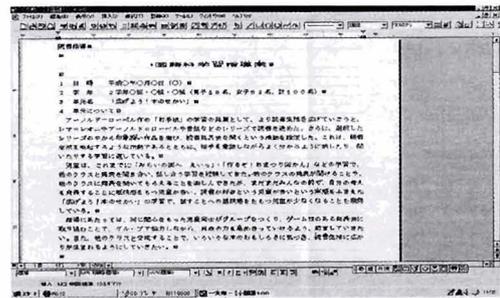
平成14年度から実施される「総合的な学習の時間」について先生方と共に新しい学びを創るよう、リーフレットを作成しました。来年度も基本的な理念や考え方、実践例等、各学校を支援できるような内容のリーフレットを発行していきます。

館内作品展示



広島市立学校の教職員の方々の作品を館内に展示しました。(絵画23点、彫刻6点、書9点)教育センターを利用される方々から「気持ちを安らげる空間ですね」と大きな反響をいただきました。展示にご協力いただいた皆様ありがとうございました。

教育情報の登録



情報のネットワーク化をひかえ、各教科・領域に関する学習指導案や教育相談の指導事例等(114件)を教育情報としてコンピュータに登録しました。必要な学習指導案を検索し印刷することができます。来年度は、全国の総合的な学習の実践例を収集し登録する予定です。

表紙絵 広島市立山本小学校校長 山中 靖宏
題字 広島市立吉島中学校教頭 花本 弘之

編集・発行/広島市教育センター
〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号
TEL(082)223-3563 FAX(082)223-3580
E-mail: center@education-c.edu.city.hiroshima.jp
広X6-98-042(3)

編集後記

年度末を迎え、何かとご多用のことと存じます。今年度最後の所報をお届けします。今後の指導の充実にご活用ください。